

登録は
コチラ

2021年1月からスタートしたe-VITAプロジェクトの集大成とも言えるファイナルカンファレンス。フランス南東エヴリーの地と、オンラインとのハイブリッドで開催されます。オープン会議ですので、ご参加いただける方はこちらより事前登録をお願いいたします。お知り合いの方にもぜひお声がけいただけますと幸いです。日本語同時通訳もごさいます。

2024年3月7日(木)～3月8日(金) | 開始時間 | 17:00～21:00予定

第1日目 2024年3月7日		第2日目 2024年3月8日	
時間	オープニングセッション	時間	オープニングセッション
17:00 17:15	主催者による歓迎の辞: Prof. Hervé Debar (Dean of Research Telecom SudParis, FR) コンソーシアム代表挨拶: 瀧 靖之(東北大学)、 Dr. Volker Wulf (Siegen University) 欧州委員会挨拶: Dr. Elisa Irlandese (European Health and Digital Executive Agency, BE)	17:00 17:15	主催者による歓迎の辞: Prof. Katherine Maillet (International direction of Telecom SudParis,FR) コーディネーター挨拶: Dr. Rainer Wieching (Siegen University), オガワ淑水(東北大学)
① テクノロジーの活用を通して支援する、地域コミュニティの快適な生活、地域活性化、スマート・エイジング社会のあり方		③ 高齢者をカブけるもの: ウェルビーイング・アプリケーションにおける大規模言語モデルの可能性を解き明かす	
17:15 18:00	基調講演: 中垣謙 (KPMGコンサルティング株式会社 ビジネスイノベーションユニット マネージャー) 司会: Malcolm Fisk (University of Central Lancashire, UK)	17:15 18:00	基調講演: Prof. Michael McTear (Ulster University) 司会: Dr. Jan Alexandersson (DFKI)
② デジタル社会における「ありがたい年齢の重ね方」 - 日欧共同e-VITAバーチャルコーチ		④ 先端技術はより良い(超)高齢社会にどう貢献するか: 人工知能とIoT技術	
18:00 18:45	②.1 基調講演: ウェルビーイングのための実践に基づくデザイン: 高齢者・ステークホルダーとの協力 Roberta Bevilacqua (INRCA) and Dana Roelen (IXP) 司会: Maria Ines Torres (UPV/EHU)	18:00 18:45	Prof. Gian-Marco Revel (Università Politecnica delle Marche), Dr. Giulio Napolitano (InfAI), Martino Maggio (Engineering) 司会: Dr. Kristina Jokinen (AIST)
18:45 19:15	休憩	18:45 19:30	休憩
19:15 20:00	②.2 基調講演: 高齢者のQOL向上を目的とした バーチャルコーチングシステム(e-VITA)の多施設比較研究 -日欧共同概念実証研究: オガワ淑水(東北大学), Dr Rainer Wieching (Siegen University) 司会: Maria Ines Torres (UPV/EHU)	⑤ AgeTechイノベーションの開発とビジネスモデルに関する グローバルな視点	
20:00 21:00	②.3 基調講演:日欧リビングラボを通じての共同デザインという経験: Prof Anne-Sophie Rigaud (Hopitaux de Paris), Ruben Albers (Siegen University) 司会: Sébastien Dacunha (APHP)	19:00 20:00	太田勇(森ミサワホーム総合研究所 取締役), Gerard Cornet (Institut Universitaire de Gerontologie Yves Memin), Prof. Aline Hrasincic (IMT-Business School) 司会: Dr. J.P. Aquino (Yale University School of Medicine)
		⑥ AgeTechイノベーションを受け入れる公共政策開発のための 権利に基づくアプローチ	
		20:00 20:45	Dr Silke Katharina Berger (CONNECTED. ESSEN The Smart City Initiative) 司会: Julia Wadoux (AGE Platform Europe)
		セミナー閉会 - 国際協力の可能性とe-VITAの未来	
		20:45 21:00	閉会の辞: Dr. Volker Wulf (Siegen University), 瀧 靖之教授(東北大学)

【※プログラムは予告なく変更になる可能性があります。予めご了承ください。】



Vol.4

01

概念実証試験について

2023年の6月から12月の間、e-VITAプロジェクトで開発した対話型コーチ機器を高齢者のご自宅に設置させていただき、その効果の実証を行っています。運動機能や身体活動、社会活動、認知機能、抑うつ度や孤独感、食品摂取状況など心身の健康指標や生活習慣に加え、ICT機器利用の自己効力感や親和性など、生活の質への効果を幅広く評価しています。

実証研究は夏から冬にかけて行われるため、これらの指標の変化には季節の影響も加わります。そこで本プロジェクトでは、参加者の意欲の違いや季節変動などの影響を排除するために、ご協力いただく参加者をくじ引きで、対話型コーチ機器を設置させていただく群(介入群)と、健康づくりのパンフレットをお渡しする群(対照群)の2群に分ける比較試験という研究方法を用いて効果を比較しています。

介入群の方々は、ヒト型ロボットやダルマ、タブレットなどの対話型コーチを体験していただいています。が、頓珍漢な答えや無言の反応なども少なくなく、「お互いにケアしていますよ」という声も聞こえています。

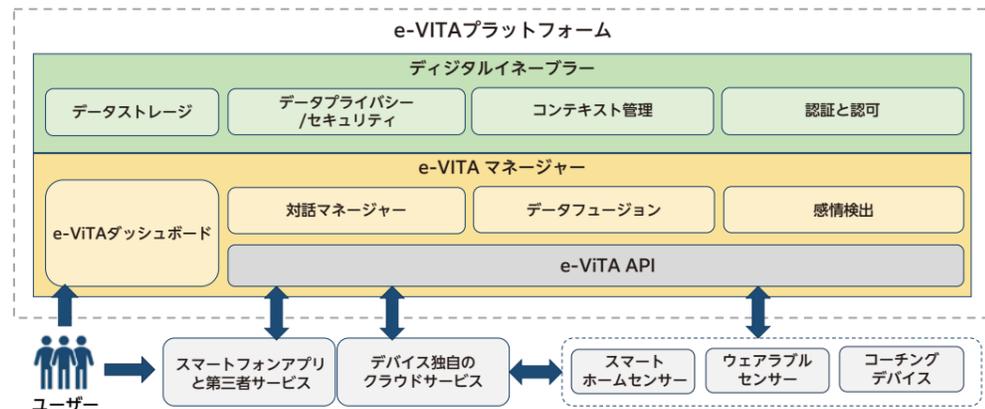
実証試験の様子





e-VITAプラットフォームは、e-VITAプロジェクトの参画機関であるデジタルトランスフォーメーション企業のENGINEERING社(イタリア)がFIWAREコンポーネント上に構築した、Digital Enablerというプラットフォームを利用しています。ENGINEERING社はFIWARE財団の共同設立社です。FIWAREブランドはもちろんのこと、FIWAREコミュニティの柱となる開放性、透明性、実力主義の原則を守りながら、その活動を支援しています。e-VITAプラットフォームは、コーチングデバイスやセンサから得られるデータの収集や管理、保存、処理を担います。また得られたデータを対話マネージャなどのプラットフォーム外のコンポーネントに受け渡し、その処理結果を受け取るといった作業も行います。さらに、ユーザの承認と認証、ユーザのデータ利用に関する同意の管理などを担うコンポーネントもe-VITAプラットフォームに含まれています。e-VITAでは、様々なデバイスやコンポーネントをつなぎ、データをやり取りするために、FIWAREテクノロジーを基盤としています。FIWAREは、スマート・ソリューションの開発を加速することを目的とした、オープンソース・プラットフォーム・コンポーネントの厳選されたフレームワークであり、近年スマートシティの実現に向けた取り組みに伴って注目を集めています。FIWAREでは、データをコンテキスト情報として取り扱います。典型的なユースケースに関しては、データモデルが公開されています。FIWAREのコンテキスト情報管理は、Context Brokerと呼ばれるコンポーネントを中心に行われます。また、NGSI-LDという標準規格のAPIを採用することで、様々な外部サービスとの連携が可能です。

e-VITAシステム



社会的ウェルビーイングはe-VITAプロジェクトの目的の一つです。私たちは社会的ウェルビーイングを「様々な人たちと健全かつ有意義な関係性が築かれ、保たれていること」と考えています。こうしたニーズをより深く理解するために、高齢者の方たち(14人)と社会生活に関する「活動」「経験」「好み」の3つについて話し合う場を設けました。

一つ目の「活動」については、高齢者はボランティア、フィットネスクラブ、散歩などに行くことを考えていることがわかりました。e-VITA交流サイトでは、このようなイベントを表示し、使用する方たちがイベント入力することで、活動へと結び付く社会参加を促します。さらにe-VITAの会話システムは、使用する人が興味ある内容を提案することができます。

また「経験」については、高齢者は夜間に孤独を感じる人が多いとわかりました。夜の孤独感は翌日の行動に悪影響を及ぼし、社会的な関係性にも良い影響を与えとは言えません。こうした点においてe-VITA会話システムは、時間に関係なく会話できるため、何気ない会話を通して孤独を和らげることが可能です。

最後の「好み」について。人々がどのように過ごしたいか、そして誰と時間を過ごしたいかは人によって様々でした。これについてもe-VITAシステムはまだ試している段階ですが、個別化機能と推奨機能があり、それぞれの高齢利用者の好みに合わせた対応ができます。

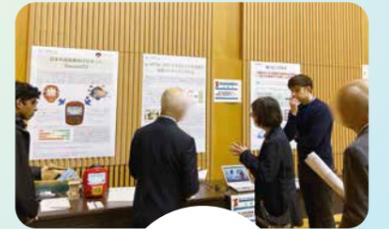
今回の話し合いの場によって、e-VITAコーチングシステムは、利用する高齢者のニーズを満たすことができ、ウェルビーイングを維持する可能性が高いということが見えてきました。



千葉県福祉機器展

Exhibition

e-VITAシステムの普及活動の一環として、11月18日土曜日、千葉県福祉機器展に初めて出展しました。今年で17回目を数える同展示会は、「これから」と「今」を支える福祉機器」と銘打ち、千葉県の我孫子駅前の「けやきプラザ」内の千葉県福祉ふれあいプラザで開催されました。講演会(3名)、ワークショップ(1件)、展示・体験コーナー(38件)といったプログラムのなかで展示したのは、e-VITAシステムの取り組みのポスターと、実際に使用している「ダルマロボット」およびその説明ポスターです。日頃から福祉機器に関心のある一般の方をはじめ、福祉のご関係者、学生の方々、出展企業の方たちが当ブースを訪れ、40名以上の方に関心を持っていただきました。特にダルマは会場の目を引く存在となり、実際に話しかける方が多く、ダルマの声を熱心に聞き取ったり、おみくじを楽しむ姿も。また共に来場していた引率の先生、学生を誘って再び訪れた学生もいて、関心の高さを表していました。初の国内展示会でのお披露目となった今回の福祉機器展では、お寄せいただいたアンケート回答も参考に、さらなるアップデートをしていく予定です。



e-VITA社会実装ワークショップ

Workshop

2023年7月末から、e-VITAを社会にどのように実装していくかを考えるワークショップを開催しています。11月までの間で合計8回にわたって、日本が抱える背景を踏まえながら、高齢者のQOLの向上、対話システムを介しての生活アドバイス機能などに関心を寄せている企業、スタートアップ、大学が集まり、テクノロジーとコンテンツのさらなる展開と社会実装に向けて、熱のこもったディスカッションを重ねてきました。e-VITAにおける社会実装とは何か。答えの一つとして、相手が高齢者であれ、企業であれ、e-VITAを通じてつながり続けることであると考えています。そのためにペルソナを検討したり、積極的なカンファレンス参加により多様な業界と新たなネットワークを築いたり、活動の源となる資金情報を共有するなど、着実に存続する行動が生まれています。2024年も引き続き情報交流を続けていきます。



北欧フィンランドNGOにe-VITAをアピール

Appeal

まだ暑い盛り9月半ば、e-VITAプロジェクトのパートナーである国立研究開発法人産業技術総合研究所(AIRC)の協力のもと、北欧フィンランドのフォルケルサン(Folkhälsan)に、e-VITAの取り組みについての説明と、ディスカッションをする機会がありました。フォルケルサンは、最大のスウェーデン語圏NGOで、1921年に設立され、約1,300人で構成されています。社会福祉・保健サービスの分野で活動しており、デイケアセンター、青少年支援、教育、高齢者・障害者向けサービス、世界トップクラスの研究センターを運営しています。この日のコーディネーターであった産業技術総合研究所は、e-VITAのインタラクションと会話AIに焦点を当て、信頼できるアプリケーションの構築方法についての発表を行い、また同席した株式会社ミサワホーム総合研究所からは、実験中の概念実証についての説明がなされました。さらにフォルケルサン側とは、日本とヨーロッパの高齢者の反応や文化の違いへの関心や、高齢者施設へのロボティクス導入の課題など多岐



にわたる質問やディスカッションが交わられました。福祉先進国の北欧フィンランドから高い関心を寄せられた今回の交流は、お互いに有益であったと感じられるだけでなく、e-VITAの将来に良い影響を与えてくれることが予見される貴重な機会となりました。

